

グローバルイシューワークショップに参加しました。

12月10日(土)、大垣市スイトピアセンターで大垣市ユネスコ協会の主催でグローバルイシューワークショップが行われました。西濃地区の高校から約50人の生徒が参加し、本校からは、松久 幹也さん(1年4組)、飯沼 美月さん(2年2組)、加藤 裕美香さん(2年4組)が参加しました。

参加者は、グループに分かれ、各自でニックネームを決め、「得意なこと」、「苦手なこと」を英語で発表して自己紹介をしました。生徒たちは他校の生徒や、外国人の先生方と積極的に交流していました。

自己紹介の後、各グループで、「幸せを創り出すもの」、「幸せを阻むもの」について英語で話し合いました。生徒たちははにかみながらも、英語で意見を発表していました。友情・家族・食べ物などが幸せを創り出すもので、幸せを阻むものとして、自然災害・怪我・過度な仕事などが話題にあがりました。

次に国民総幸福量(Gross National Happiness)について英語で学びました。各グループで、心理的な幸福、生活水準・所得、国民の健康などの9つの項目について、自分の幸福度を評価表を使って9つの分野で評価し、意見を交換しました。同じように、世界の国々について幸福度を評価しました。「日本やアメリカはリッチだけど、ストレスが多くまた、自然環境もよくない」という意見が出ました。

最後に望ましい学校について、各グループに分かれて、英語で話し合いました。「設備が良い」、「実践的な科目が学べること」、「複数の外国語が学べること」、「生徒も先生も元気である」ことがあげられました。多くのことを学びたいという生徒たちの意欲を感じました。司会者は、「ただ単に望ましい学校のことを考えるのではなく、それを地域社会に、日本に、世界に広げて考えてほしい、さらに、望むだけでなく、自分で何ができるかを考える必要がある」と話されていました。生徒達は、多くのことを学んだようです。また、英語で自分の意見が述べることで自信がついたようです。

生徒の感想

- ・英語で何を伝えるのは、難しいと改めて感じました。英語をもっと学びたいと思いました。また、外国人と話ができて楽しかった。
- ・いざ、英語で意見を述べようとするとなかなか言えませんでした。他校の生徒で積極的に英語で意見を述べている人もいてびっくりしました。また、世界をより良い世界にするために、まずは身近なことから始めようと思いました。
- ・英語を使って外国人と話せてとても楽しかった。これからの時代、英語は大切だと実感した。

